

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 4 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22310164

研究課題名（和文） バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー

研究課題名（英文） Gender analysis of peace building in the age of backlash

研究代表者

秋林 こずえ（AKIBAYASHI KOZUE）

立命館大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：90377010

研究成果の概要（和文）：国際平和安全保障政策・平和構築政策へのジェンダー視点の導入やジェンダー正義の確立について、現代の武力紛争下の組織的性暴力に対する国連の政策分析、軍事性暴力被害者・サバイバーとアドボカシー、トラウマとヒーリング、「和解」、「バックラッシュ」などをサブテーマとして共同研究を行った。そこから平和構築へのジェンダー視点の導入は、構造的暴力の克服という平和研究におけるジェンダー平等の確立とは一線を画すものであることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The research project analyzed the integration of gender perspectives into international peace and security policies and peace building as well as establishing gender justice in the following areas as analysis of the UN policies on current systematic sexual violence in armed conflicts, the conditions of victims and survivors of military sexual violence and their advocacy, trauma and healing, reconciliation, and backlash. The research revealed a gap between current international policies of gender integration to peace building and gender equality in peace studies as overcoming structural violence.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2011年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2012年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
年度			
年度			
総計	12,200,000	3,660,000	15,860,000

研究分野：ジェンダー研究

科研費の分科・細目：ジェンダー、ジェンダー、

キーワード：ジェンダー、平和構築、軍事性暴力、バックラッシュ、ポスト紛争、ジェンダー正義

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、戦時性暴力が可視化されるようになり、国際政治の現場では紛争や平和関連の政策をジェンダーの視点から分析する重要性が徐々に認識されてきた。また2000年以降には、ポスト紛争社会の政策である平和構築へのジェンダーの視点の導入

も、国連や市民社会運動の中で謳われてきた。しかし、ジェンダーの視点から平和構築政策を分析した研究は数少なく、大別して2つの分野、紛争後の復興における女性の社会参加、平和維持部隊による難民・国内避難民に対する性暴力、しかないといえるだろう。また、これらの研究もNGOなどによる実情

のレポートが主で理論研究は非常に少ない。例えば移行期の正義におけるジェンダー正義も、平和構築研究ではほとんど取り上げられていないことなどからも、平和構築研究にはこれまでのジェンダー研究の知見が活かされていない。

2. 研究の目的

ジェンダーの視点から平和研究また平和・安全保障関連政策への正義をめぐる議論の導入を図る。具体的には、ポスト紛争における「平和構築」とジェンダー正義の確立を目指す理論的かつ実践的研究に取り組む。

3. 研究の方法

平和研究、ナショナリズム研究、ポストコロニアル研究、表象文化研究という4つの分野を架橋し、法学・歴史学・政治学・心理学・表象といった各分野の研究者と協力して、バックラッシュ時代にジェンダーの視点から平和構築に取り組み、紛争のない状態だけではなく、安心・安全・公正な社会を実現するためには、どのような理論や営為、また政策が必要なのかについて重層的・多面的にアプローチする。

4. 研究成果

本研究は、ジェンダーの視点から、平和研究や平和・安全保障関連政策への正義をめぐる議論の導入を図り、ポスト紛争社会における「平和構築」とジェンダー正義の確立を目指す理論的かつ実践的研究を試みたものである。これまでの国際シンポジウムや研究会では、日本軍性奴隷制度、暴力被害者の語り・表象、トラウマとヒーリング、和解、平和教育などについて議論を重ねてきた。最終年度は国際平和安全保障政策・平和構築政策へのジェンダー視点の導入について、国連安全保障理事会での議論や紛争・ポスト紛争地域での経験、さらにジェンダー正義の確立を目指すアカデミズムの議論をどのようにかみ合わせることができるのか（あるいは、できないのか）を中心に検討した。まとめとして国際シンポジウム「ジェンダーと平和・安全保障」（2012年11月3日）を開催した。シンポジウムでは、ジェンダーを採り上げた初めての安保理決議である1325号「女性・平和・安全保障」の採択に安保理非常任理事国として深く関与したアンワル・チャウドリー元国連大使の基調講演に加え、研究者・実践者による「ジェンダーの主流化政策と平和・安全保障」に関するパネル・ディスカッションを行った。ここで近年、国際政治の現場で急速に展開している、1325号国内行動計画（加盟国政府による1325号実施計画）や、ジェンダーの主流化政策とポスト紛争社会での開発政策との関連、

また武力紛争と組織的性暴力が繰り返される地域での1325号の意義などに関する議論を行った。これらを通して、国際平和安全保障政策におけるジェンダー正義の確立のために、現在のジェンダーの主流化政策におけるジェンダー平等と平和の関連性をより強める必要性、また市民社会の役割が明らかにされた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計28件）

村本邦子、DVと子ども、子どもの心と学校臨床、査読無し、8巻、2013年、52-59

松本克美、障がい児を産まない権利？障がい児として生まれえない権利？、『ジェンダーと法』、査読無し、9号、2012年、105-114

二宮周平、子の福祉と嫡出推定、戸籍時報、査読無し、692号、2012年、4-17

二宮周平、性別の取扱いを変更した人の婚姻と嫡出推定、立命館法学、査読無し、345-6号、2012年、576-610

二宮周平、性的少数者の権利保障と法の役割、法社会学、査読無し、77号、2012年、88-106

村本邦子、国際シンポジウム・ワークショップ「人間科学と平和教育～体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の視点から」を開催して～HWHのこれから、共同対人援助モデル研究、査読無し、5巻、2012年、157-166

姫岡とし子、ドイツにおけるホロコーストの記憶文化と性、歴史と地理、査読無し、No.65、2012年、1-15

崎山政毅、架空資本の現在と《知識》運用資本主義下における課題 物象化・物神性の解明と「生態経済学」批判、環境思想・教育研究、査読無し、第6号、2012年、31-39

秋林こずえ、ジェンダー視点からの基地撤廃グローバル・ネットワーク、季刊戦争責任研究、査読無し、第77号、2012年、23-30

松本克美、従軍慰安婦訴訟が問うたもの・今後の課題、女性・戦争・人権、査読有、11号、2012年、31-41

松本克美、法律基本科目について 研究者教員の視点から、法曹養成と臨床教育、無、4号、2012年、27-33

崎山政毅、「低迷する社会闘争、飛躍を狙う国家連合 ラテンアメリカの現状から」、『ピープルズ・プラン』、査読

- 無し、57号、2012年、76-85
宮城晴美、不処罰」による国家責任を問う 日本軍「慰安婦」問題と米兵による性犯罪、季刊戦争責任研究、査読無し、第74号、2011年、16-20
金恵玉、南京を思い起こす 2009 - 戦争によるトラウマの世代間連鎖と和解修復の可能性をさぐる、国際セミナー「南京を思い起こす 2009」の記録、ヒューマンサービスリサーチ、立命館大学人間科学研究、査読無し、19巻、2011年、208-233
池内靖子、ジェーン・ジン・カイセン監督の映画『女と孤児と虎』 抗争の場をひらく声と語り、インパクション、査読無し、180号、2011年、206-210
Kuniko Muramoto、History and Current Approaches to Violence Towards Women in Japan、Feminism & Psychology、有り、21-4、2011年、509-514
村本邦子、戦時性暴力/日常の性暴力～南京ワークショップからの報告、立命館言語文化研究、査読無し、23-2号、2011年、183-185
二宮周平、家族法の問題点と改正の方向、論究、査読無し、7号、2010年、25-34
二宮周平、婚外子の平等とジェンダー、ジェンダーと法、査読無し、7号、2010年、38-50
松本克美、侵害行為者の特定と共同不法行為責任の成否、立命館法学、査読無し、333・334 合併号、2010年、2838-2862
21 岡野八代、家族の新しい可能性へ--国家からの家族の解放はどこまで可能なのか?、ジェンダーと法、査読無し、7号、2010年、51-64
22 岡野八代、規範理論における主題としての「家族」、立命館法学、査読無し、333・334 合併号、2010年、329-364
23 崎山政毅、喧噪の表現運動、立命館文学、査読無し、620号、2011年、134-155
24 崎山政毅、アンデスのアヴァンギャルド、立命館言語文化研究、査読無し、22(4)、2011年、79-88
25 村本邦子、女たちの二十年、女性ライフサイクル研究、査読無し、20巻、2010年、9-12
26 村本邦子、レジリエンスモデルによる支援者支援、現代のエスプリ、査読無し、524号、2011年、107-116
27 山下英愛、メディア社会を生きる 韓国ドラマを読み解く、ヒューマンライツ、査読無し、271号、2010年、40-43
28 山下英愛、日本における韓流ドラマ翻訳とジェンダー-'冬のソナタ'を中心に、生存学研究センター報告、査読無し、15号、2010年、62-69

〔学会発表〕(計26件)

山下英愛、「朝鮮の新女性にみる貞操観」、総合女性史研究会2012年度大会、昭和女子大学、2013年3月25日

Kozue Akibayashi: 「Peace in North East Asia from a gender perspective: Has "more women" ever been given a chance?」,International Peace research Association 2012,三重県男女共同参画センター(三重県)、2012年11月24日

二宮周平:「立法論～改正の方向」日本家族(社会と法)学会第28回学術大会シンポジウム「父子関係成立のあり方の検討～嫡出推定・認知制度の見直し」、日本家族(社会と法)学会、鹿児島大学(鹿児島県)2011年11月5日

秋林こずえ「安保理決議1325号国内行動計画」、国際シンポジウム『ジェンダーと平和・安全保障』、立命館大学(京都府)、2012年11月3日

崎山政毅「《前夜》の思想」、社会思想史学会第37回大会・全体シンポジウム、一橋大学(東京都)2012年10月24日

Yasuko Ikeuchi: 「Son Kum's video and performance works」英国日本研究協会(BAJS)、University of East Anglia、(英国)、2012年9月6日

松本克美:不貞慰謝料の本質 法律婚の性・生抑圧装置化、民科法律部会民法法合宿研究、あいち健康プラザ(愛知県)2012年8月25日

姫岡とし子:「歴史研究とジェンダー - 近代ドイツのナショナリズムを例にして、メトロポリタン史学会、首都大学東京(東京都)、2012年4月21日

宮城晴美:沖縄戦の後遺症とトラウマの記憶 「集団自決」の傷あと 「復帰40年 沖縄国際シンポジウム」2012年3月30日・31日早稲田大学

松本克美:障害児を生まない権利? 障害児として生まれない権利? ジェンダー法学会、東北大学(宮城県)2011年12月4日

山下英愛:ジェンダーの視点でみる韓国ドラマ、愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所、愛知淑徳大学(愛知県)2011年11月24日

Yasuko Ikeuchi: "The Work of Three Women Artists: Korean Diaspora and the Politics of Translation" "Imagine micro strategies and visions in contemporary art" The Aarhus Art Building - Centre for Contemporary Art (デンマーク)、2011年11月3日

Yasuko Ikeuchi: "The Powers of Mourning and Violence in the Works of

- Performance by Soni Kum”, 国際演劇研究学会(IFTR)パネル報告、大阪大学
- 崎山政毅, 他 3 名: "グローバル・ヒストリーズとは何か" 立命館大学国際言語文化研究所連続講座グローバル・ヒストリーズ, 立命館大学(京都府), 2010年11月5日
- 崎山政毅, 他 3 名: "沖縄の<現在>を思想史からとらえかえす" 社会思想史学会, 神奈川大学(神奈川県), 2010年10月24日(大阪府) 2011年8月10日
- 松本克美: "従軍慰安婦訴訟が問うたもの・今後の課題" 女性・戦争・人権学会第12回大会, 同志社大学(京都府), 2010年6月27日
- 岡野八代, 宮城晴美, 姫岡とし子, 池内靖子, 崎山政毅, 秋林こずえ: "バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー-「女性国際戦犯法廷」10周年を迎えて", 立命館大学(京都府), 2010年12月19日
- K. Muramoto & Aya Kasai: "Remembering Nanjing to Heal the Wounds of History" International Conference for Educators on the History of WWII in Asia. University of Toronto (カナダ), 2010年10月1日
- 村本邦子: "歴史のトラウマと和解修復の試み~HWH(Healing the Wounds of History)プログラムの体験的ワークショップ" 日本集団精神療法学会 28 回大会, 立命館大学(京都府), 2011年3月12日
- 山下英愛: "韓国ドラマに見る女性たちの生き方-儒教的家父長社会・家族からの脱却" 教職員地域研修推進委員会南ブロック大阪市外国人教育研究協議会・市民交流センターひらの(大阪府), 2010年6月16日
- 21 山下英愛: "性暴力の視点から日本軍「慰安婦」問題を考える-日本社会に問われていること" 名古屋市立高等学校教員組合女性部合宿学習会全体会講演, 名古屋ウィルあいち(愛知県), 2010年10月31日
- 22 山下英愛: "和解と平和を求めて-併合100年-の視点から考える「慰安婦」問題" 日本キリスト教協議会(NCC)女性委員会, 日本基督教団会議室(東京都), 2010年6月24日
- 23 山下英愛: "社会を変える韓国の女性たち-ジェンダー平等政策を支えてきたもの" 茨木男女共生センターローズWAM講座市民協働企画講座, 茨木男女共生センター(大阪府), 2010年3月4日
- 24 二宮周平: "事実婚の多様性と法的保護の根拠" 日本家族(社会と法)学会第27

- 回学術大会, 筑波大学(茨城県), 2010年11月6日
- 25 金恵玉: 「韓国の平和教育」2010年関東平和教育学研究会、京都教育大学(京都府) 2010年12月26日
- 26 金恵玉: 「非暴力実践運動のやり方 韓国とコスタリカの事例を踏まえて」2010年度秋季日本平和学会:非暴力分科会大学(茨城県) 2010年11月6日茨城

〔図書〕(計8件)

- 岡野八代, 『フェミニズムの政治学 ケアの倫理をグローバルな社会へ』, みすず書房, 448p.(2012)
- 松本克美 『続・時効と正義 消滅時効・除斥期間論の新たな展開』, 日本評論社, 328p.(2012)
- Toshiko Himeoka, The Gendered Limits of Holocaust Memories in Germany, Muta/Yamamoto (ed.), *The Gender Politics of War Memory. Asia-Pacific and Beyond*, 133-154, 2012
- 山下英愛(共編) 『「慰安婦」問題の解決に向けて』, 白澤社, 267p.(2012)
- 岡野八代(編): "自由への問い(7)家族新しい「親密圏」を求めて" 岩波書店. 222 (2010)
- 二宮周平: "自由への問い(7)家族新しい「親密圏」を求めて(岡野八代編)(新しい家族が求める「自由」~家族法の視点から:担当)" 岩波書店. 60-84 (2010)
- Kozue Akibayashi & S. Takazato, "Gender Imperative: State Security vs. Human Security." Routledge. 38-60(456) (2010)
- Yasuko Ikeuchi: "Counter-Narrativity and Corporeality in Kishida Rio's Ito Jigoku. in Hallensleben, M. ed. *Performative Body Spaces*, Rodopi. 105-115(250) (2010)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

6. 研究組織

(1) 研究代表者

秋林こずえ (AKIBAYASHI KOZUE)
立命館大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：90377010

(2) 研究分担者

池内靖子 (IKEUCHI YASUKO)
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号：80121606

二宮周平 (NINOMIYA SHUHEI)
立命館大学・法学部・教授
研究者番号：40131726

松本克美 (MATUMOTO KATSUMI)
立命館大学・法務研究科・教授
研究者番号：40309684

中川成美 (NAKAGAWA SHIGEMI)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：701098034

崎山政毅 (SAKIYAMA MASAKI)
立命館大学・文学部・教授
研究版番号：80252500

村本邦子 (MURAMOTO KUNIKO)
立命館大学・応用人間科学研究科・教授
研究者番号：70343663

坂本利子 (SAKAMOTO TOSHIKO)
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号：90331115

姫岡とし子 (HIMEOKA TOSHIKO)
東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：80536235

山下英愛 (YAMASITA YEONG-AE)
立命館大学・文学部・講師
研究者番号：80536235

岡野八代 (OKANO YAYO)
同志社大学・グローバル・スタディーズ研
究科・教授

研究者番号：70319482

金恵玉 (KIM HYE-OK)
立命館大学・経済学部・講師
研究者番号：40611794

宮城晴美 (MIYAGI HARUMI)
琉球大学・大学教育センター・講師
研究者番号：80618786